

第12回 ごみ処理恵庭モデル検討会(議事録)

日 時:令和5年1月26日(木)16:00~17:00

場 所:市民会館2階 中会議室

出席者:9名 【会 長】中尾 文子 【副会長】吉田 英樹
【委 員】河野 恵美・中川 淳一・平井 梓・石上 一美・小林 貴・大嶋 亮馬・槇 愛美

欠席者:1名 【委 員】落合 信也

事務局:8名 野村 孝治(生活環境部長)・小路 弘樹(生活環境部次長)
中山 真(廃棄物管理課長)・田中 徹(同主幹)・谷村 直宏(同主査)
水野 光代(同主査)・石丸 直稔(同主査)・牧野 有紘(同主事)

1. 開 会

2. 挨拶(会長)

3. 第11回ごみ処理恵庭モデル検討会の振り返り

4. 議 事

ごみ処理恵庭モデル確立に向けた提言書(最終案)について

5. その他

(各委員から「ごみ処理恵庭モデル検討会」の振り返り、事務局からお礼の挨拶)

6. 閉 会

～議事要旨～

5 議事

(1)第11回ごみ処理恵庭モデル検討会の振り返り

～事務局より説明～

- ・資料1 第11回ごみ処理恵庭モデル検討会振り返り

質疑なし

(2)ごみ処理恵庭モデル確立に向けた提言書(最終案)について

～事務局より説明～

- ・資料2-1 ごみ処理恵庭モデル確立に向けた提言書(最終案)
- ・資料2-2 提言書修正内容一覧表

委員 A: 昨年1月から本検討会の中で、随分と回を重ね、様々な議論を進めてきました。本日はその総括ということで、後半から参加させていただきましたが、前半の議論過程を見させていただき、多くの議論を重ね、今日の提言書になったのだと思っています。個人的にもごみの問題、環境問題については極めて大事なテーマだと感じています。本提言書はあくまでも「ごみ処理恵庭モデル」ということで、恵庭ならではのオリジナルな、独自性を持ったごみ処理ということが大きなテーマだったのだろうなと思っています。そういった意味では、提言書の中にも書かれている「恵庭の特長」、特にやはり市民が極めて高い分別意識をもって取り組んでいること、更にはリサイクル率が全道市で2位に位置づけられるほど、リサイクル率が高いということ、こういった極めて市民意識の高い取り組みの結果が「恵庭に住んでよかった」というところに繋がっているのだと改めて感じるところです。

こういった恵庭ならではの特長を活かした取り組みが必要である一方で、我々市民にとってごみ処理手数料は極めて身近であり、生活に繋がる一番注目すべき部分かと思います。事務局が分析・調査した資料を見る中で、地域によって大きな乖離がありますので、いわゆる「地域間格差」の是正が極めて重要であるのではないかと思います。近隣市に住んでいる人たちが「恵庭市のごみ処理手数料は高い」と感じることもあると思うので、「数少ないこれからもっとも人口が増える恵庭市」であると思いますので、そういった近隣市との格差の是正を含め検討していかなければならないと思います。

また、個人的に恵庭リサイクルパークに期待をしているところです。障がい者の雇用の促進という点で、極めて重要な取り組みであると思います。まさに、「恵庭モデル」の1つとして是非推進していただきたいと思います。一方で、ハード面の課題についても多くあるかと思うので、解決に向けながら資源化の促進をすすめ、リサイクル率道内1位を目指しながら、

さらに障がい者の雇用拡大と、今後取り組んでいただきたいなと思います。

副会長：先ほど周辺自治体と比較してごみ処理手数料が恵庭市は高いというお話がありましたが、私が驚いたのは、通常あまり触りたくない料金の値上げ等について、検討会の中で費用対効果も含め様々なコスト面から議論を行ったことです。ここまで検討会等の中で料金について議論を行うことも少ないのではないかと思います。ごみ処理手数料が無料の自治体から来た方は、ごみ処理手数料が非常に高いと感じるというご意見を以前目にしたことがありますが、実はこれには誤解があり、可視化していないコストというものは基本的には自治体間でそこまで大きな差はありません。市が負担する部分と市民が負担する部分のバランスをどのように取っていくのかということであり、無料にしている自治体はその分を負担しているということです。ただそれには限界があり、やがて立ち行かなくなって値上げをせざるを得ないということとなります。コストの部分をしっかりとして市民に説明しなければ、市民からするとただ、「他のまちよりも高い」と思われてしまいます。そうではなく、市民の方々にはごみの減量に取り組んでいただきつつ、市はコストと負担割合についてしっかりと説明し、そういった誤解を生まないようにしなければならないと思います。

事業系廃棄物については、先ほどのお話にもありましたが料金はかなり高い設定となっておりますが、逆に他の自治体が安いのは「排出者負担」という原則に踏み込んでいないからであると考えています。実際にかかっているコストを考えると、恵庭市の料金くらいの金額に設定していかないと、今後多くの自治体はだんだんと立ち行かなくなり、値上げを考えていかなければならなくなると思います。急な値上げになると事業者への負担も大きいので考えながら進めていく必要がありますし、料金が高い・低いではなく「どのような負担割合でバランスを取っていくか」ということが重要で、それを恵庭モデルとして市民の方々に広く伝えていくことが大切であると思います。

委員 A：恵庭リサイクルパーク設置協議会について、昨年11月に協議終了となっておりますが、個人的に期待を寄せているところでもありますので、ここで協議を終わらせずに実行に向けた次に繋がる継続した協議が必要であると思うのですがいかがでしょうか。

会長：こちらについては、事務局から状況についてご説明いただきたいと思います。

事務局：この恵庭リサイクルパーク設置協議会では、就労支援施設としての運営の可否について、各事業者から意見聴取を行ってきたところです。このように数多くの意見をいただいた中で、今後は我々の方でどのようにすれば運営ができるか、施設面の課題や人的な部分、運営事業者の選定手法について内部で検討したいと考えています。実際に提案いただいている事業者や現状運営を行っている事業者からの情報を収集しながら、検討していきたいと思っています。

会長：この点について確認ですが、提言書 P20「リサイクルセンターの運営について」の考え方の

中にある「可能な限り課題への対応策等を示し、事業者募集をする」というのは、市で検討して、決めていくという理解でよろしいでしょうか。

事務局：おっしゃるとおりです。

会長：関連して、同じページに短期の取り組みとして「見学しやすく作業員にも配慮した施設整備」となっていますが、現状のタイムスケジュールなどはありますか。

事務局：現在次年度の予算編成を行っておりますので、予算編成がある程度固まったタイミングで、財政サイド、企画サイド等と協議して進めていきたいと思っています。具体的なスケジュールについては各課との協議の中で決定していく予定です。

委員 B：提言書ですが、まとまったなあと思っています。昨年1月から議論を重ね、最初の頃はこういった提言書になるのかなと思っていたので、こういった形になって感慨深いです。今後のスケジュールの中で、ごみ処理手数料については大きな目的ではあるかと思いますが、それだけではなく、今後の啓発活動にも繋げてほしいと思っています。市民からすると手数料は非常に重要なところで、値上げに関しては反発もあると思いますが、恵庭のごみ処理は「高いけどいいものである」ということや、「なぜいいものなのか」「なぜ高いのか」というところがもっと市民の方に理解いただけるといいなと思いました。その理解が深まれば、自然と手数料への理解に繋がるでしょうし、提言書にもある市民・事業者・市の三者一体で今後のごみ処理について取り組んでいきたいと思っています。ごみ処理だけではなく、税金・手数料がこういった形で使われているという「見える化」の啓発をこの提言書を活用してできればいいなと思います。また、いつかこの提言書が陳腐化したときには、こういった検討会のような機会があるといいなと思いました。

会長：ありがとうございます。この提言書は次回恵庭市長に提言を行うこととなりますが、市民の方はこの提言書の内容を確認することはできるのでしょうか。

事務局：現段階では、市民に対しては広報等で特集を組むことや、今後予定している廃棄物減量等推進審議会では、本提言書を踏まえた諮問書を作成し、諮問する予定です。本提言書を基に広く市民に周知していきたいと思っています。

(3)その他

～各委員から「ごみ処理恵庭モデル検討会」の振り返り、事務局からお礼の挨拶～

委員 A：改めて大変お疲れ様でした。提言書もカラフルで見やすく、花びらが色んなところで咲いていて、素晴らしい提言書だと思いました。そしてなにより、これだけ多くの方が12回も議論を

重ねたことが極めて有効なものであったと感じています。先ほどもお話がありましたが、この場で留めることなく、これを市民に啓発していければと思います。恵庭市の特長は何といっても「市民意識の高さ」であると思いますが、これをもっと引き上げて上げていき、特に未来を担う子供たちに恵庭のごみ処理をわかりやすく伝えていき、分別やりサイクルを実践しながら成長してってもらいたいです。それが、恵庭モデルの大きな目的の1つでもあるかと思っています。先ほど事務局からもありましたが、広報など様々な媒体を活用しつつ、デジタルを活用した新しい地方創生という方向に国も舵を切っていますので、そういったところも先を見据えた取り組みが必要になるのではないかなと思います。1年間大変お忙しい中集まっていたいただき、大きな成果を得ることができたと思います。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

委員 C: 皆さまお疲れ様でした。この12回の会議を通して、今までこんなにごみのことを真剣に考えたことがなかったなと思いました。恵庭の現状を知りながら、恵庭独自の戸別収集がなくなったら、高齢者は一体どうなるのかということを考えさせられました。高齢者の住みよい地域づくりとして地域の意見を吸い上げたりしていますが、今後更に廃棄物管理課と協働で考えていかなければならないと思いました。非常に良い経験になりました。ありがとうございました。

委員 D: 私は本検討会に途中からの参加となり、また転勤で恵庭市に来たこともあり、中々良い意見が出せなかった部分はございますが、メッセージにも書いたとおり、今まで様々な自治体に住んできましたが、戸別収集は恵庭市が初めてでした。最初は「なんでこんなコストがかかることをやっているのかな」と思っていました。戸別収集が高い分別意識の基盤となり、恵庭市のごみ処理を支えていることを改めて認識しました。我々も会社の中で「分ければ資源、分けなければごみ」となるという話はしていますが、中々分別が徹底されていない実情もあります。その部分を改善するために、やはり啓蒙が大事で、従業員に対してただ分別しろと言っても分別は改善されません。「このごみが分別されることでこういう処理で、こういった方法で資源としてリサイクルされている」ということ伝えたり、我々の会社は食品を製造しておりますので、発生したロスを飼料として育った豚の肉を社内食堂で活用するなどして、従業員にも「社内で発生するロスを分別することで、資源としてリサイクルが可能になる」ということを伝えるにつれて、少しずつ従業員の意識にも変化が見られました。

本検討会に参加して、はじめは「ここまで細かいことをやるのか」とびっくりしましたが、非常に目標高く、それに向かってよくまとまった提言書になりましたので、市民や子供たちの啓発に使っていただければと思います。途中参加ではありましたが、勉強させていただくことが非常に多かった検討会でした。ありがとうございました。

委員 B: 1年間いろんなことを勉強させてもらいました。参加した当初は一市民の立場でしか知らないことばかりでしたが、行政が行っていることや事業者が行っていること、処理に関する問題や施設が抱える課題なども知ることができました。やはり、まずは「知ること」が大切なんだな

と思いました。今を知ることによって次に繋がっていくということを改めて感じました。「ごみを減らす方法」に注目されがちですが、提言書の中ではごみを減らすだけでなくその先を見据えていますので、恵庭のごみ処理は北海道において1歩先をいくトップランナーであるということをもっと広めていければと思っています。啓蒙や啓発の重要性については皆さまからお話がありましたが、学ぶ機会が増えるといいなと思います。子どもたちが施設を見て学ぶことで、家庭内では既に変化が起きています。1つのごみ分別の意味や、ごみ処理がどうなっているのかということを知る機会が重要だと思っています。今回のような検討会での活動がまたあれば是非参加したいですし、こういった活動があるということも広めていきたいと思っています。ありがとうございました。

委員 E: 私をはじめは、ごみは生活の中に溶け込んでいるにも関わらず、あまり深く考えたことはなかったもので、学生の立場として本検討会でこういった貢献ができるか不安でした。実際に参加してみて、私にとって難しい話もたくさんありました。学生として新たな視点で意見をすることも、思うようにはできませんでした。ただ、自分が本検討会を通して学んだことを実践してみたり、周りの学生に伝えるということは意識的に行っていたので、そういったことが少なからず恵庭市のごみ処理の改善に繋がってくれたらいいなと思いました。

また、本検討会に参加したことで、今までなんとなく見過ごしていたポイ捨てのごみや、友人の住むアパートに行ったときにアパートのごみステーションが溢れかえっていることが気になったり、というような意識の変化がありました。自分ひとりで未来を変えていくということは中々難しいかと思いますが、小さな積み重ねで、まずは自分自身で意識改善を図り、それを周りの学生に共有し意識を変えていければ、結果的に良い未来に繋がっていくと思うので、今回とても良い経験ができたと思います。ありがとうございました。

委員 F: 私は市民団体の代表として活動しており、恵庭市の助成で子どもたちをごみ処理施設へ連れて行ったり、学生もそういったところに行ってもらったり、繋がりをもってみんなで考えていくと活動がちょっとずつ広がっている実感がありました。団体の方では、SDGsについても取り上げていて、この検討会の公募枠があれば是非参加してみたいなと思っていました。実際に入ってみると、家庭ごみだけでなく事業系一般廃棄物や産業廃棄物についても考えるテーマとなっていて、難しいこともたくさんありましたが、意見を1つずつ丁寧に拾っていただいて、それを提言書の中に盛り込んでいただいたことも嬉しく思いますし、恵庭モデル検討会に入ってから常にごみのことを考えるようになりました。今回、子どもたちの冬休みを利用して市に学童への出前講座を依頼したのですが、そうするとやはり子どもたちがすぐごみに関心を持ってくれて、今度は施設見学にいきたいと言ってくれました。施設見学となると、バスの調達など大変なこともあります、「ごみに関心を持ってもらう」というきっかけづくりとしては非常によかったと思います。

そして、恵庭リサイクルパークについても非常に興味があり、恵庭市内にはA型就労支援施設が非常に少なく、就労を希望している障がい者の方々困っている状況にあります。こういった施設ができることで、就労した方々が恵庭市にずっと住んでもらえることで人が増え

ていくということは、とても嬉しいことだと思います。

また、ごみ処理手数料について、ごみ袋を買う時は「高い」と思うかもしれません。ただ、「ではごみを捨てる際にごみをどこまで減容しているのか？」というところはまだまだ皆さん改善の余地があると思います。テレビでも紹介されていましたが、ごみを小さくする方法はたくさんあって、動画などを活用して周知していけば、ごみ処理手数料の料金が高いかどうか、その手数料で戸別収集が成り立っていて、「きれいなまち」が維持されているのであれば、手数料が少し高かったとしても理解してくれる人がいるのではないかと思います。ただ、「分別を完璧にしなければいけない」と思ってしまうと負担になるところもあるかと思しますので、楽しみながら行っていくこと、小さいアクションを起こしていくことを大切に、できることをもっともっと増やしていきたいなと思っています。ありがとうございました。

委員 G: 皆さんお疲れ様でした。私もごみを出す一市民としてこの検討会に参加して、知らないことばかりで頭がパンクしそうになりながら学んできました。この検討会の開催期間中に子どもと施設見学に行かせていただいて、元々子どもはごみ処理について興味があったこともあり非常に興味深く見学していました。今では我が家では一番分別に詳しくなっています。

現在小学4年生の子どもは「ごみの分別」や「リサイクル」などいわゆる「ごみ処理の表の部分」にすごく興味を持っていますが、中学生の子どもは「ごみ袋の料金が上がることはいやなこと」だけど、「なぜ上がる必要があるのか」というもう少し深い部分に興味を持っています。「ごみ処理に税金が使われている」ことはなんとなくわかるけども、「何に使われているのか、本当に必要なのか」というお金のシステムを知りたいと興味を持っています。この提言書にはそういった部分も書かれているので、そこまで知った上で納得するということがすごく大切だと思いました。戸別収集をやめれば、ごみ袋の料金を下げることでも可能かと思いますが、「じゃあ本当にそれでいいのか」ということも議論を重ねてきて、市民一人ひとりに寄り添った提言書になったなと思っていて、1年間でよくまとまったなと感じています。

この1年間で知ることが本当に多く、役に立てたかどうか分からないですが、私が知ったことでまた1歩恵庭モデルが進んだのかなというように捉えて、そうすることによってこの提言書でまた知ってくれる人が増えるとどんどん恵庭モデルが進んでいくのかなと思っています。この提言書は「大人がやっと読める提言書」だと思いますので、次は子どもたちにどのように広げていくのか、子どもといっても年齢によって理解度、興味等が違うので、こういった形で提供していくかということも考えていければと思います。教育の現場では先ほど言った「表(分別やリサイクルなど)の部分」が話されることが多いので、もっと深い部分を知っていると、恵庭モデルが1歩も2歩も進んでいくのかなと思っています。なので、これからも子どもたちと一緒に学んでいけるようにしたいなと思っています。ありがとうございました。

副会長: 検討会では様々な意見交換を行って、私自身楽しませていただくことができました。私の地元の話を見せてもらって、恵庭市のごみ処理がどれだけ進んでいるのかという部分をお伝えさせていただきましたが、そういった外から見ることでわかるところをお伝えすることで、皆

さんの参考になっていけばと思います。本検討会は学生の方や NPO の代表の方など、非常にパワーのある方々が委員になられて、こういった意見が様々飛び交う委員会は今まで経験したことがありませんでした。そういった意味で非常に活性化した、意見の言いやすい検討会だったなと思っています。

市民の利便性とコスト高というのはトレードオフであり、常にそのバランスをどうとっていくかを考える必要があります。私としてはどちらかという行政の立場に近い意見だったかもしれませんが、行政はこういった検討会での様々な意見を聞いた上で、トレードオフのバランスをどこにもっていくかを考えるのですが、その時に皆さんの意見は非常に参考になるのではないかと思います。私自身もとても参考になりました。先ほど「見える化」の話にもありましたが、15年前くらいは市民に対してあまり苦勞(課題)を見せず、可能な限り税金で負担してごみ処理手数料は無料としている自治体が多くありました。だんだんと財政的な事情によって市の負担とすることが出来ずに SOS を出して、1袋20円ほどで有料化が始まりました。20円から高いところでは150円など様々ありますが、行政側の SOS によって、市と市民両方で負担をしていくということになり、ではその負担割合をどうするかということを考えなければならぬということになりました。料金がなぜ高いのか？ということでは止まってしまうと議論が進まないのですが、本検討会での議論では様々なごみ処理に係るコストの話がありました。それで見ると恵庭市では年間で約15億円かかっており、中々こういったコストを意識することはないと思います。委員の皆さんがこのコストを知っていただいたことで、時間をかけていけば市民の方々にも伝わっていくのではないかと思います。私はコストの話を中心にさせていただきましたが、ごみ処理はやはりサービスなので、いかに恵庭市のサービスがいいか、ただお金はかかっているの、削減の努力は必要ですし、市民の方々にはごみの減量や分別をしていただきながら、びんは割れてしまうと残渣となり処理にお金がかかるということなどを知ってもらえるといいと思います。検討会が終了して、ここから先はいかに市が実践していけるかということになるかと思っています。ごみ処理は時代によって変化していきます。あと5年経てば状況が変わってコストと市民利便性のバランスも見直さなければいけなくなったり、施設が故障したりなどもあると思いますが、いかにその時に恵庭モデルを軌道修正していくかということが大切だと思います。行政が推進しながら市民が協力して、恵庭モデルを進めていただければと思います。私も自分の自治体で恵庭市を横目に見ながら頑張っていきたいと思っています。皆さん貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございました。

会長： みなさん本当にお疲れ様でした。最初の検討会のときに、様々な立場の方がいて、それぞれ色々な意見をお持ちだったので、私でうまくまとめられるのだろうかと不安な部分もありましたが、皆さんと忌憚のない意見を取り交わすうちに、次第に一緒の方向に向いてきていることが感じられて、皆さんの意見はどれもありがたいものでした。

検討会のプロセスの中で、ワークショップ形式で意見交換ができたことがとても良かったと思います。ある程度恵庭市のごみ処理の現状を知った上で、「どこまで、何を指すのか」

ということを皆さんと意見交換が出来、本当にありがたいなと思っています。当初いただいた資料の中で「身の丈にあった」という言葉があり、「それってなんなんだろう」という議論をしましたが、恵庭市のごみ処理というのは現段階でもすごく優れていて、それを更に向上させていくことを目指して議論を重ねるうちに、次第に「身の丈」という言葉は消えて、「目指せるところまで目指そう」という風になっていきました。ただ、それは「予算をかけていく」ということではなく、手数料はどうなっているのか、税金負担はどうなっているのか、ということ踏まえた上で「減らせるところは減らして、今の技術で出来ることやっていく」というものだったと思います。

また、副会長もおっしゃっていましたが、市民の皆さまの熱意と、実際の行動というものがすごく見えてきたので非常にありがたく思いました。提言書を作り上げていく過程の中で、委員の皆さまそれぞれの知見を惜しみなく提供していただいていたと思います。本当にどうもありがとうございました。また、事務局の皆さまも大変お疲れ様でした。

事務局：皆さまお疲れ様でした。長きに亘り、昨年の1月から1年かけて非常に長い間貴重な時間を割いていただいて、また恵庭のごみの現状を知っていただきながら様々な議論をしていただき、提言書をまとめていただいたことに対しまして心から感謝申し上げます。本来であれば、市長が皆さまに委嘱している関係上、ご挨拶をさせていただくところですが、公務の為私が代わりにご挨拶申し上げます。

これまで恵庭のごみ処理というのは、旧焼却施設がダイオキシンの規制に伴って休止してからはずっと埋立処分という形になっておりました。その中でどうやってごみを減らそうかということ考えたときに、市民の声や意見を聞いて、その上で市の方針を決定しようということでこういった市民会議が始まりました。前回の市民会議では様々な議論をしていただき、まとめられたものが恵庭市の計画の中に盛り込まれている循環型社会形成推進施策という20の施策をもって恵庭のごみ処理を進めていくというものでした。そういった施策がある程度形になったということで、施設の整備が終わり、令和2年度には焼却施設の稼働も無事に開始し、現在の恵庭市のごみ処理があります。施設整備が終わり、ごみ処理手数料や事業系ごみなど新たな課題が生じる中で、「どのように今後の恵庭市のごみを処理していくのか」ということを改めて市民の皆さまに意見をお伺いしたいということで、専門家である副会長にもお話いただきながら、議論を重ねてこられたことに対して本当に感謝の気持ちでいっぱいです。前回の市民会議でも提言については全て計画の中に盛り込み、進めてきたところですが、今回皆さまからいただいたこの提言書につきましても、可能な限り今後のごみ処理に活かしていきたいと思っておりますので、その点については所管課において精査し、より多くのものを取り入れていければと思っておりますので、皆さまにはご安心いただきたいと思っております。

また、提言書を広く市民の皆さまに周知していきたいと思っておりますし、市民の方々が議論して提言書を作り、それを基にごみ処理を進めていくという恵庭市のスタイルを守っていきたく思います。本当に長い間、委員の皆さまありがとうございました。

【検討会の様子】

